

V 調査結果の詳細【医療保険者調査】

V 調査結果の詳細【医療保険者調査】

1 医療保険者の概要

問1 貴保険者の概要（平成27年4月1日時点）についてお答えください。

（※ II 調査概要 6 回答者の属性（2）（P.12）参照）

2 がん検診の実施状況

問2 貴保険者のがん検診の実施状況（平成27年度）についてお答えください。

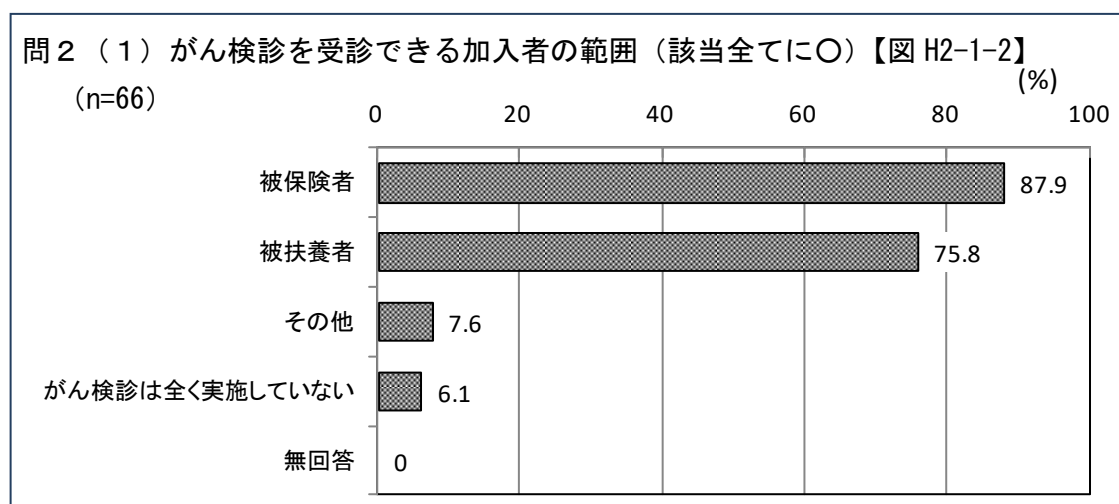
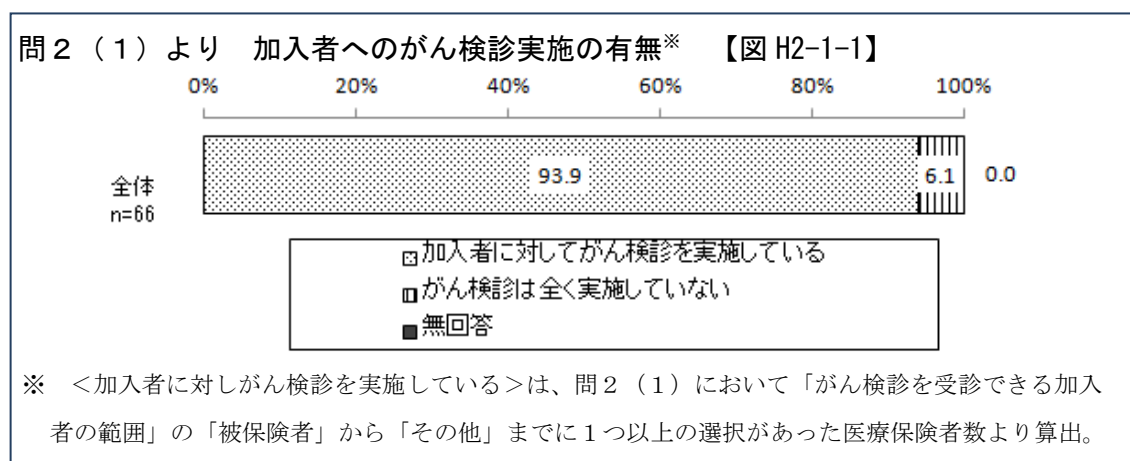
（1）がん検診実施の有無及びがん検診を受診できる加入者の範囲

【全体の傾向】

自らの医療保険の＜加入者に対しがん検診を実施している＞医療保険者は93.9%。「がん検診は全く実施していない」とした医療保険者は6.1%で、全体の9割以上でがん検診を実施している。

がん検診を受診できる加入者の範囲としては、「被保険者」が87.9%、「被扶養者」が75.8%。

（図 H2-1-1／図 H2-1-1）



【医療保険者の種別の傾向】

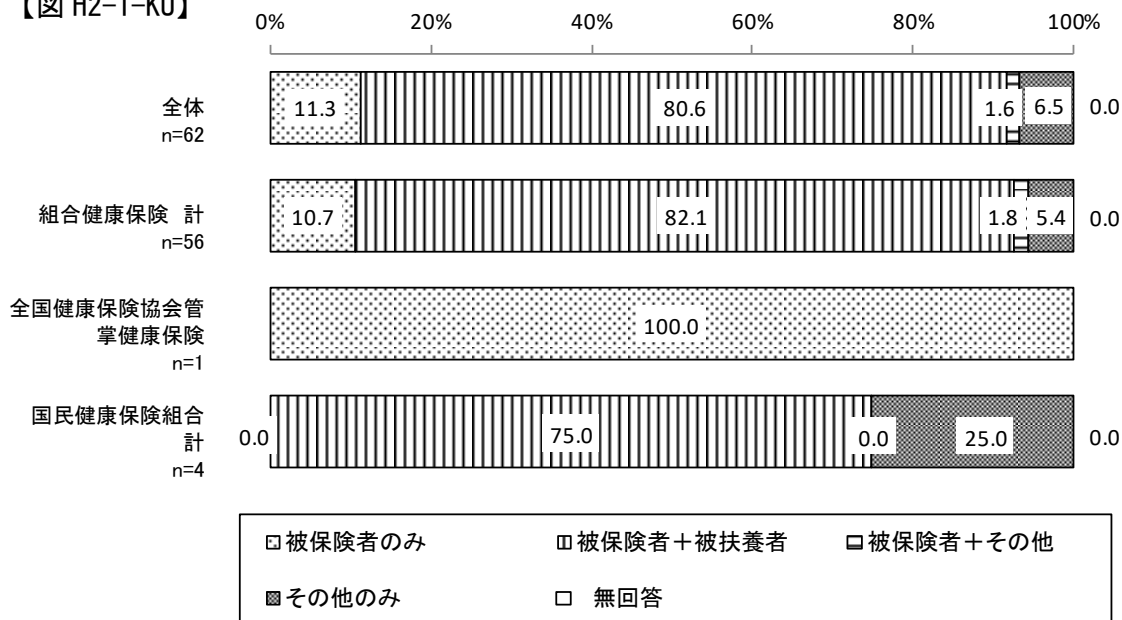
＜医療保険者の種別＞ 【表 H2-1-I】

	医療保険者数	しがてん い検診を 計実施	上段:件数、下段:構成比(%)			実が 施ん 検診 は全 いく	無 回 答
			被 保 険 者	被 扶 養 者	そ の 他		
組合健康保険 計	59 100.0	56 94.9	53 89.8	46 78.0	4 6.8	3 5.1	- -
全国健康保険協会 管掌健康保険	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -
国民健康保険組合	5 100.0	4 80.0	3 60.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	- -

医療保険者の種別にみると、各医療保険者の＜加入者に対しがん検診を実施している＞割合は【組合健康保険】では94.9%、【国民健康保険組合】では80.0%となっている。（表 H2-1-I）

【がん検診を受診できる加入者の範囲の組み合わせ（参考）】

【図 H2-1-KU】



がん検診を受診できる加入者の範囲の組み合わせをみると、全体では「被保険者+被扶養者」が80.6%で最も多く、「被保険者のみ」が11.3%でこれに次いでいる。

医療保険者の種別にみると、【全国健康保険協会管掌健康保険】では「被保険者のみ」、【組合健康保険】及び【国民健康保険組合】では全体の傾向と同様に「被保険者+被扶養者」がそれぞれ82.1%、75.0%で最も多い。（図 H2-1-KU）

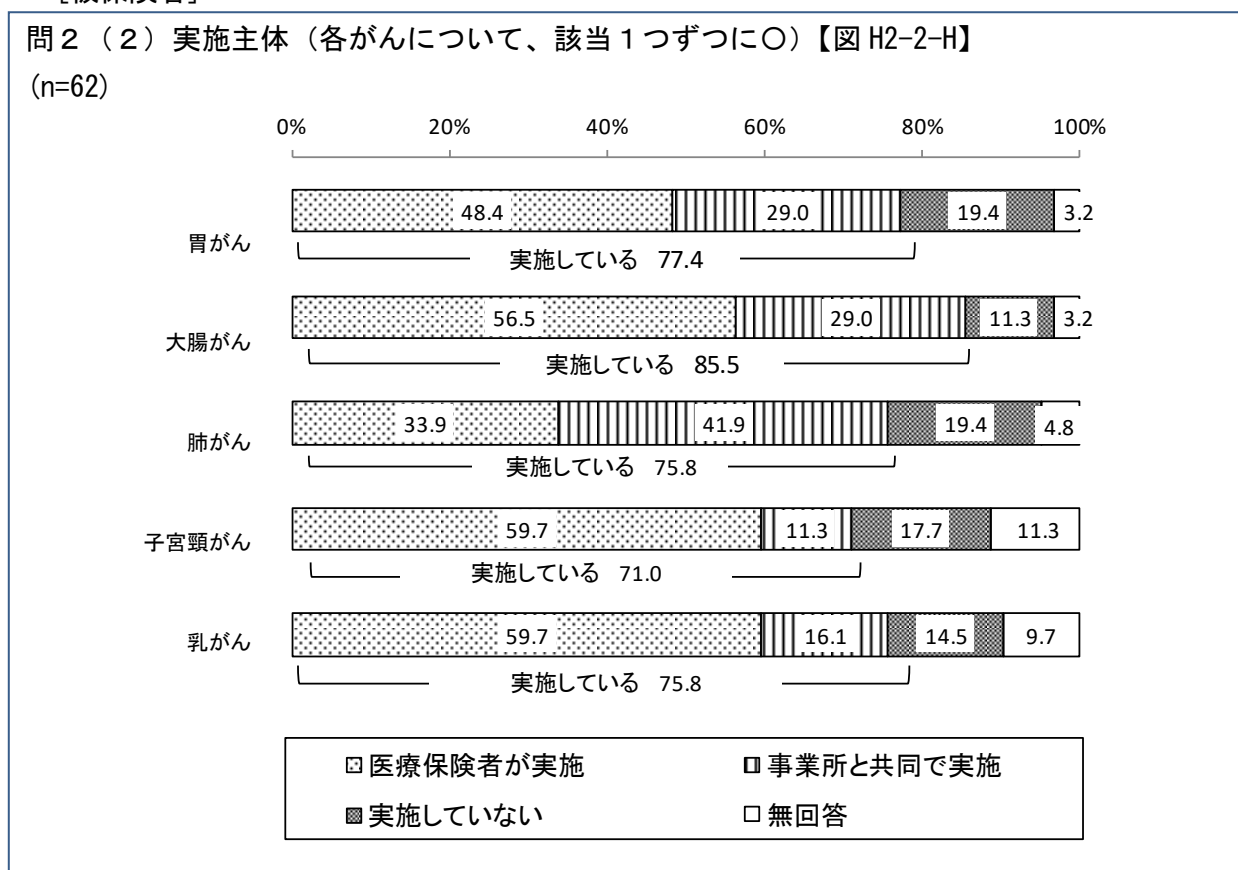
(2) 各がん検診実施の有無及び実施主体

【全体の傾向】

＜加入者に対しがん検診を実施している医療保険者に、各がん検診の実施主体を伺ったところ、被保険者の[肺がん]を除くすべてのがんで、「医療保険者が実施」が最も多い。

「医療保険者が実施」と「事業主と共同で実施」を合計した各がん検診を＜実施している＞割合は、被保険者ではすべてのがんで7～8割となっており、被扶養者でもすべてのがんで6～7割となっている。(図 H2-2-H/図 H2-2-F)

【被保険者】

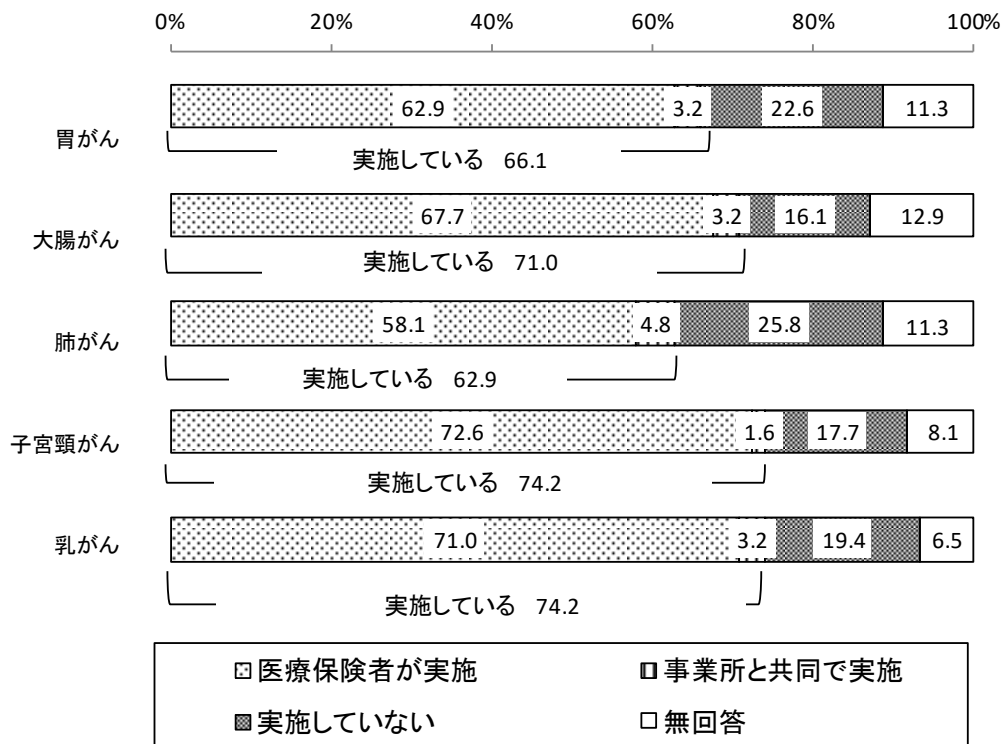


被保険者に対し＜実施している＞がんの種類をみると、[大腸がん]が85.5%で最も多い。[子宮頸がん][乳がん]では、がん検診を「事業所と共同で実施」している割合が1割程度に留まり、他のがんに比べて少ない。(図 H2-2-H)

[被扶養者]

問2 (2) 実施主体 (各がんについて、該当1つずつに○) 【図 H2-2-F】

(n=62)

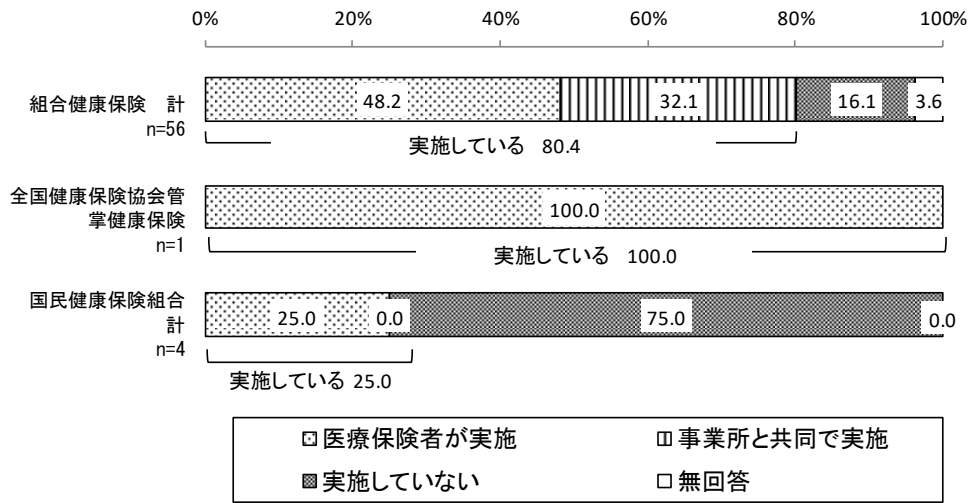


被扶養者に対し「実施している」がんの種類をみると、[子宮頸がん][乳がん]が74.2%で最も多く、[大腸がん]が71.0%でこれに次いでいる。(図 H2-2-F)

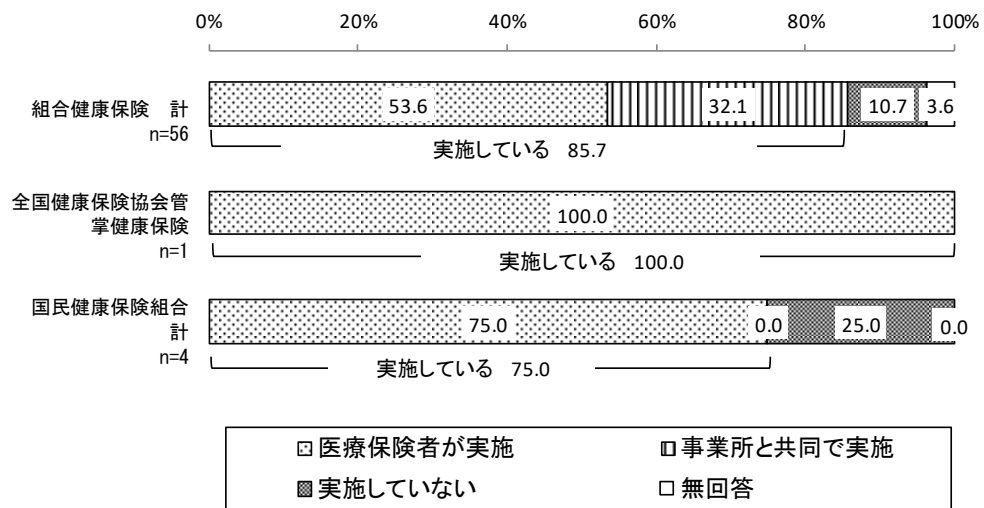
【医療保険者の種別の傾向】

ア. 被保険者の傾向 【図 H2-2-HH】

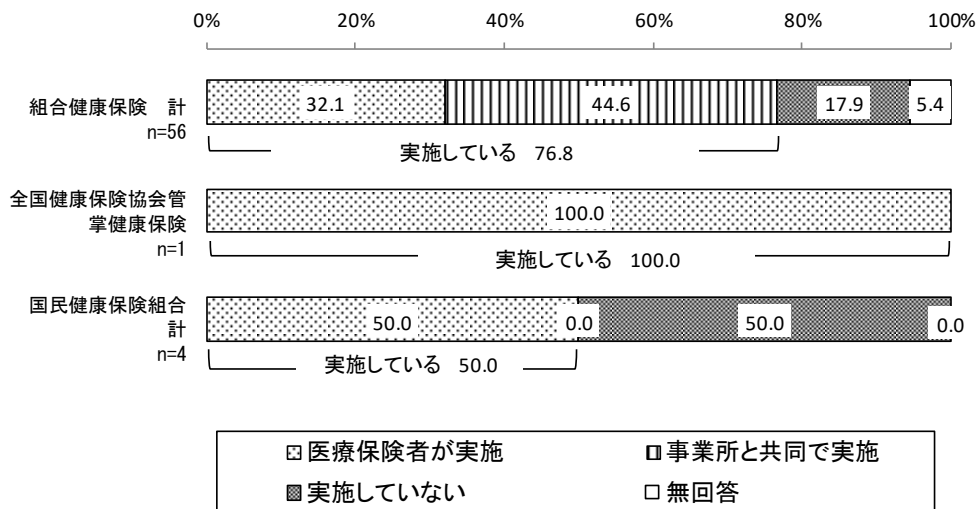
[胃がん]



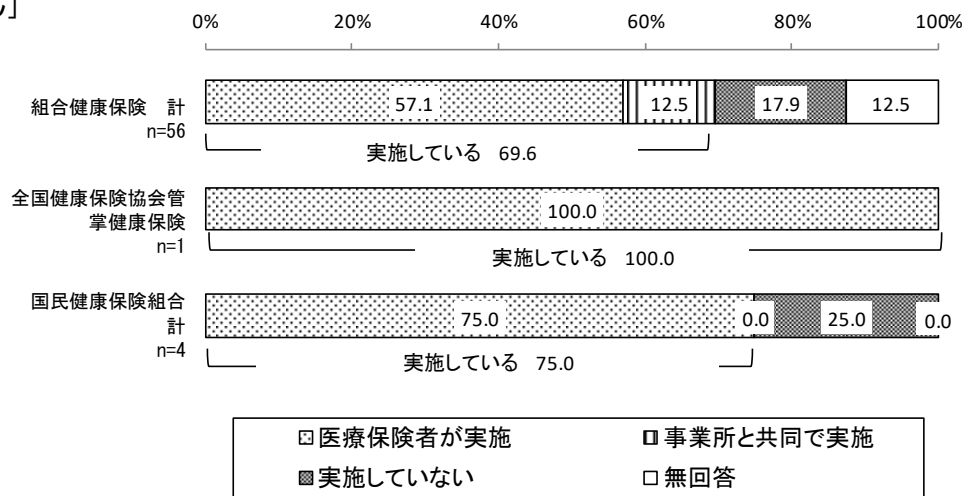
[大腸がん]



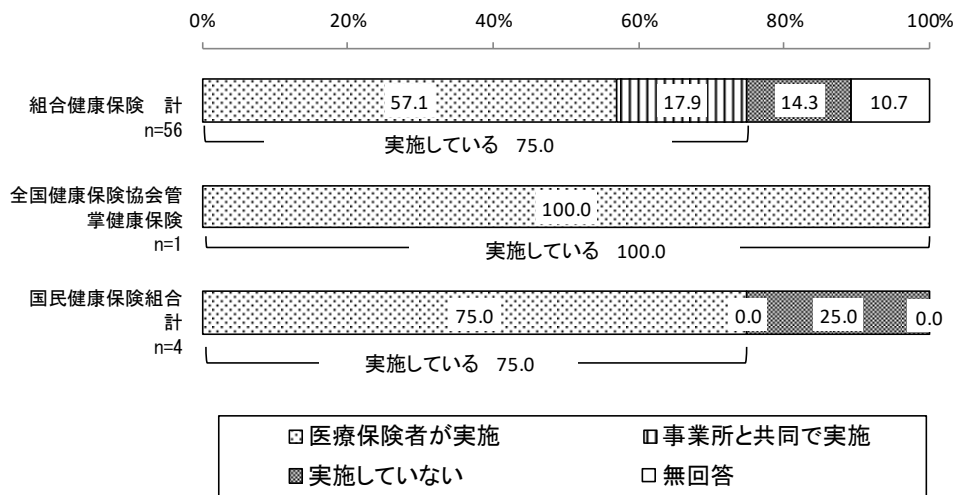
[肺がん]



[子宮頸がん]



[乳がん]

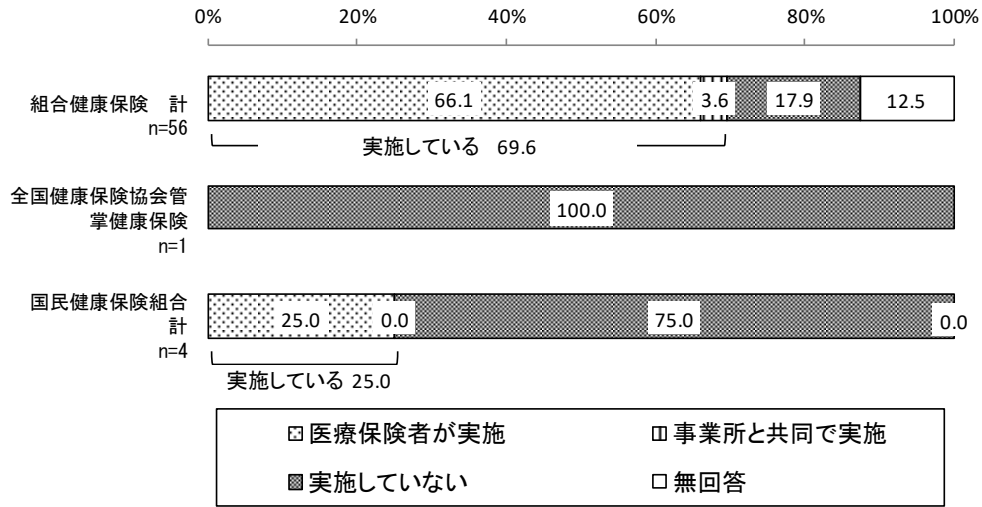


被保険者での状況を医療保険者の種別にみると、各がん検診を<実施している>医療保険者は、【組合健康保険】では、すべてのがんについて6～8割であり、【国民健康保険組合】は、[大腸がん][子宮頸がん][乳がん]はいずれも75.0%となっているが、[肺がん]は50.0%、[胃がん]は25.0%に留まる。【全国健康保険協会管掌健康保険】では、5つのがんすべてにおいて<実施している>という回答であった。

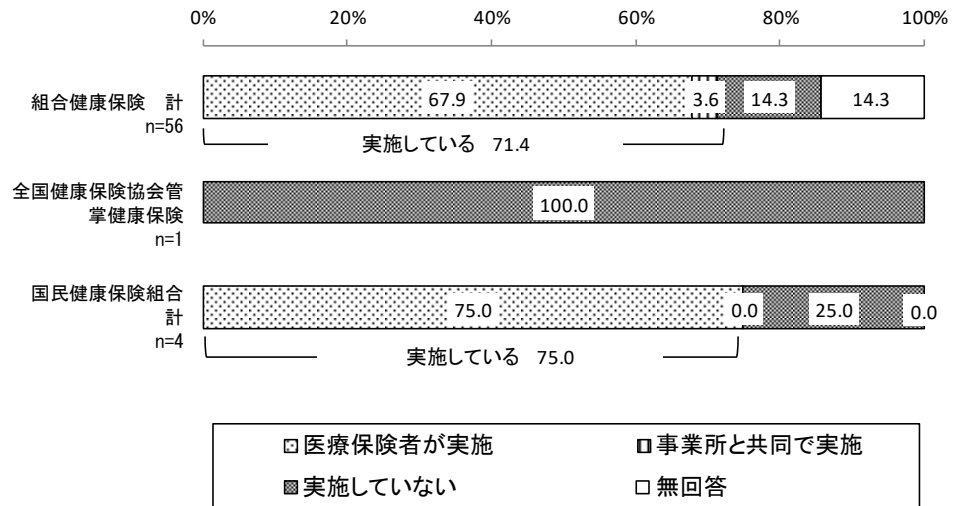
実施主体をみると、【組合健康保険】では、[肺がん]を除くすべてのがんについて、「医療保険者が実施」が多い。【全国健康保険協会管掌健康保険】では、すべてのがんについて「医療保険者が実施」している。【国民健康保険組合】では、各がん検診を<実施している>場合の実施主体は、すべて「医療保険者が実施」となっている。(図 H2-2-III)

イ. 被扶養者の傾向 【図 H2-2-FF】

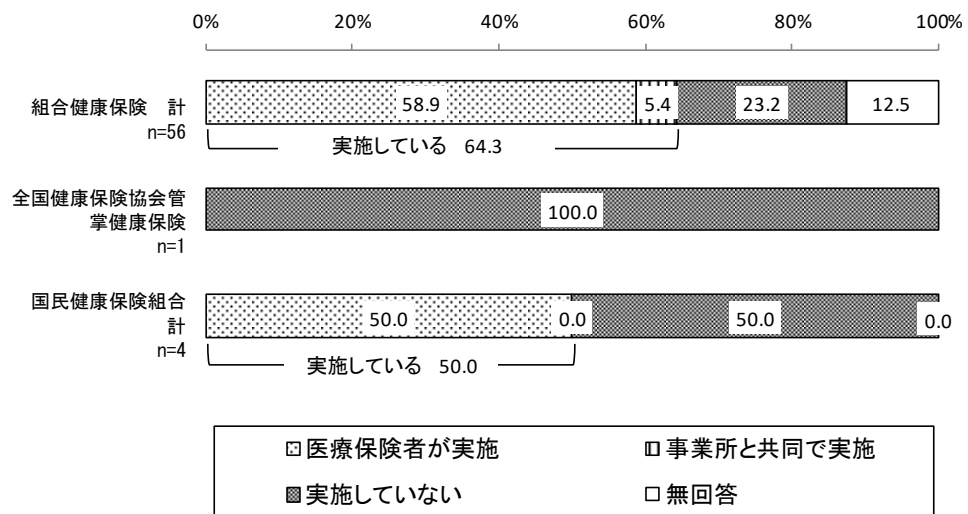
[胃がん]

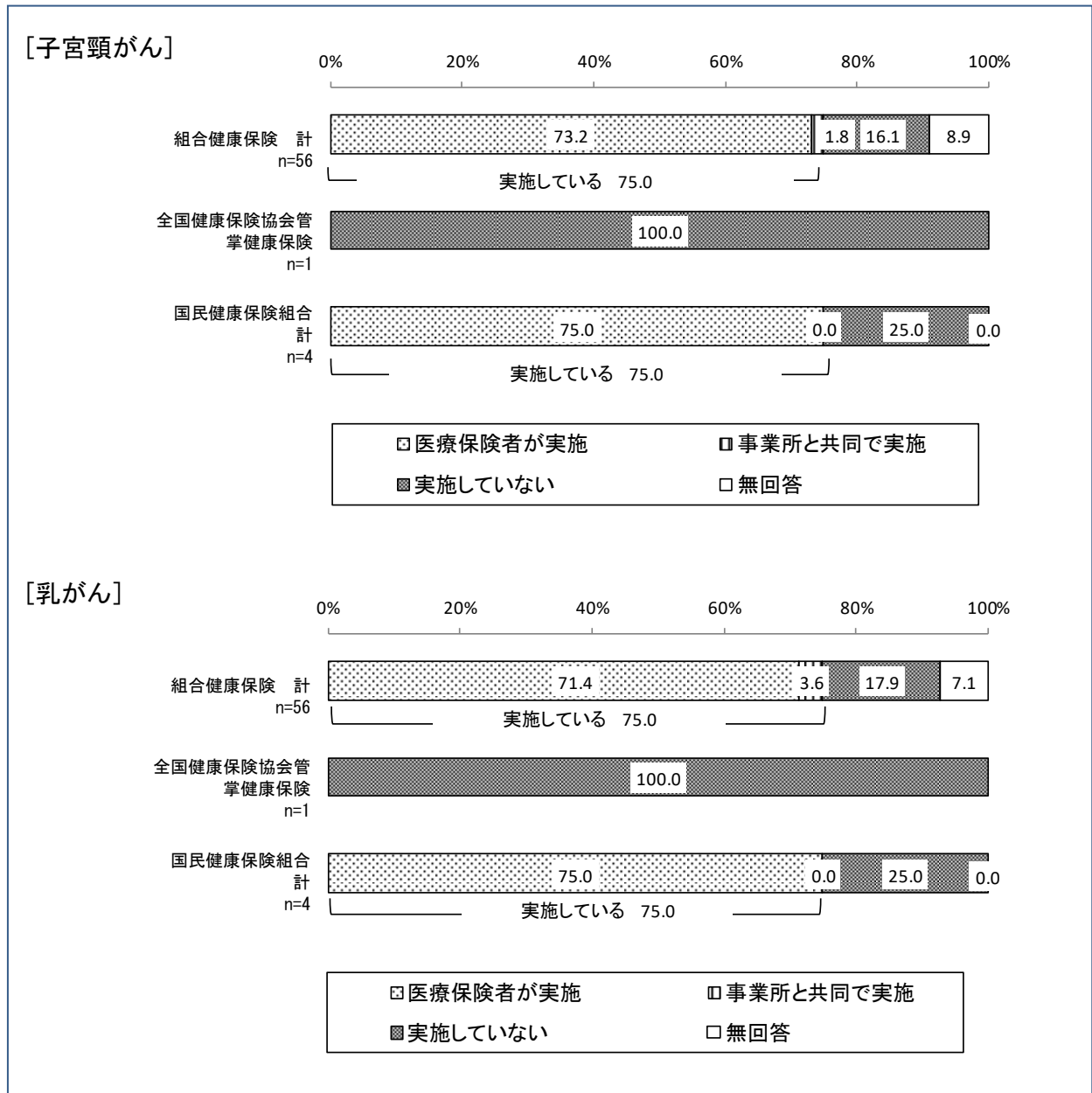


[大腸がん]



[肺がん]





被扶養者での状況を医療保険者の種別にみると、各がん検診を<実施している>医療保険者は【組合健康保険】では、すべてのがんについて6～7割であり、【国民健康保険組合】は、[大腸がん][子宮頸がん][乳がん]はいずれも75.0%となっているが、[肺がん]は50.0%、[胃がん]は25.0%に留まる。【全国健康保険協会管掌健康保険】では、すべてのがんについて「実施していない」という回答であった。

実施主体をみると、【組合健康保険】では、すべてのがんについて、「医療保険者が実施」が多い。【国民健康保険組合】では、各がん検診を<実施している>場合はすべて「医療保険者が実施」となっている。(図 H2-2-FF)

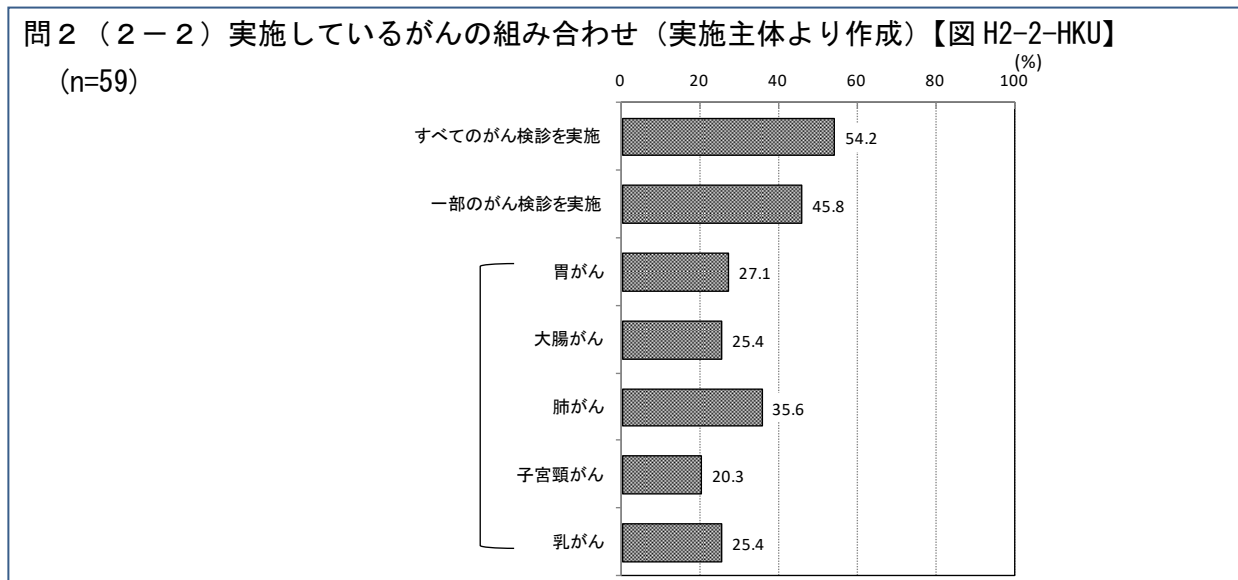
(2-2) (参考) 実施しているがんの組み合わせ

【全体の傾向】

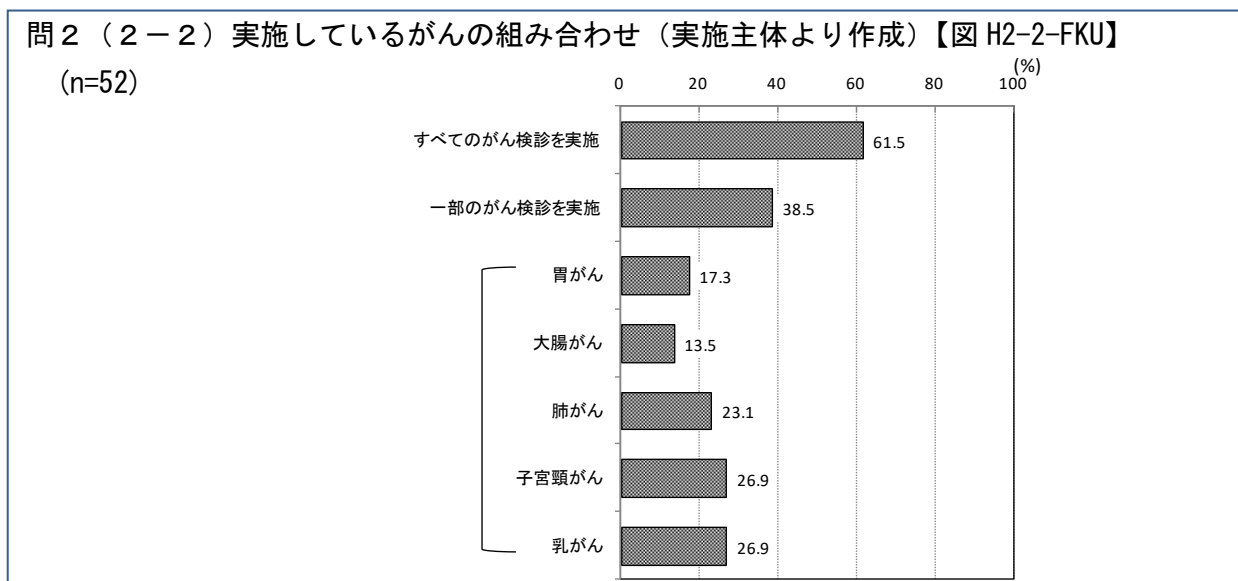
がん検診を実施している医療保険者における、実施しているがんの組み合わせをみると、被保険者・被扶養者ともに「すべてのがん検診を実施」している割合がそれぞれ 54.2%、61.5%で最も多い。「一部のがん検診を実施」している医療保険者は被保険者・被扶養者それぞれ 45.8%、38.5%となっている。

「一部のがん検診を実施」している場合のがんの種類としては、被保険者では[肺がん]が 35.6%で最も多い。一方、最も実施している割合が低いのは[子宮頸がん]で 20.3%。被扶養者では[子宮頸がん]及び[乳がん]がともに 26.9%で最も多い。一方、最も実施している割合が低いのは[大腸がん]で 13.5%。(図 H2-2-HKU/図 H2-2-FKU)

[被保険者]



[被扶養者]



【医療保険者の種別の傾向】

医療保険者の種別にみると、被保険者・被扶養者ともに、【組合健康保険】では「すべてのがん検診を実施」がそれぞれ54.7%、63.8%で、「一部のがん検診を実施」を上回っている。

【国民健康保険組合】では「一部のがん検診を実施」の割合が高い。(表 H2-2-HHH/表 H2-2-FFF)

[被保険者]

【表 H2-2-HHH】

	医療保険者数	すべてのがん検診を実施	一部のがん検診を実施	上段:件数、下段:構成比(%)				
				胃がん	大腸がん	肺がん	子宮頸がん	乳がん
組合健康保険	53 100.0	29 54.7	24 45.3	16 30.2	14 26.4	19 35.8	10 18.9	13 24.5
全国健康保険協会 管掌健康保険	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -
国民健康保険組合	4 100.0	1 25.0	3 75.0	- -	1 25.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0

[被扶養者]

【表 H2-2-FFF】

	医療保険者数	すべてのがん検診を実施	一部のがん検診を実施	上段:件数、下段:構成比(%)				
				胃がん	大腸がん	肺がん	子宮頸がん	乳がん
組合健康保険	47 100.0	30 63.8	17 36.2	9 19.1	6 12.8	10 21.3	12 25.5	12 25.5
国民健康保険組合	4 100.0	1 25.0	3 75.0	- -	1 25.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0

(※ 全国健康保険協会管掌健康保険は該当なし)

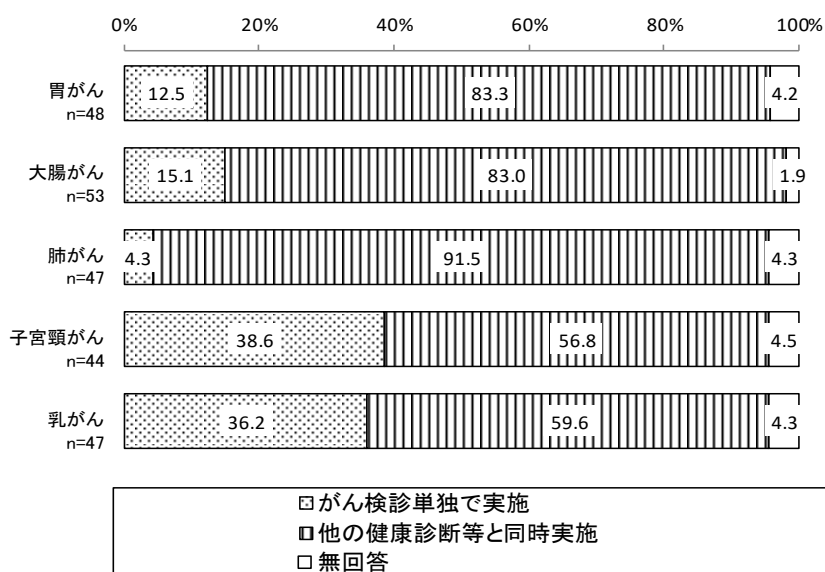
(3) がん検診の実施のタイミング

【全体の傾向】

被保険者・被扶養者とも、5つのがんすべてにおいて、「他の健康診断等と同時実施」が最も多い。被保険者・被扶養者ともに、[子宮頸がん][乳がん]では、「がん検診単独で実施」が多く、被保険者ではともに3割、被扶養者では2割近くとなっており、他のがん検診に比べて多い。また、被扶養者では、[大腸がん]についても「がん検診単独で実施」が18.2%で2割近くとなっている。(図 H2-3-H/図 H2-3-F)

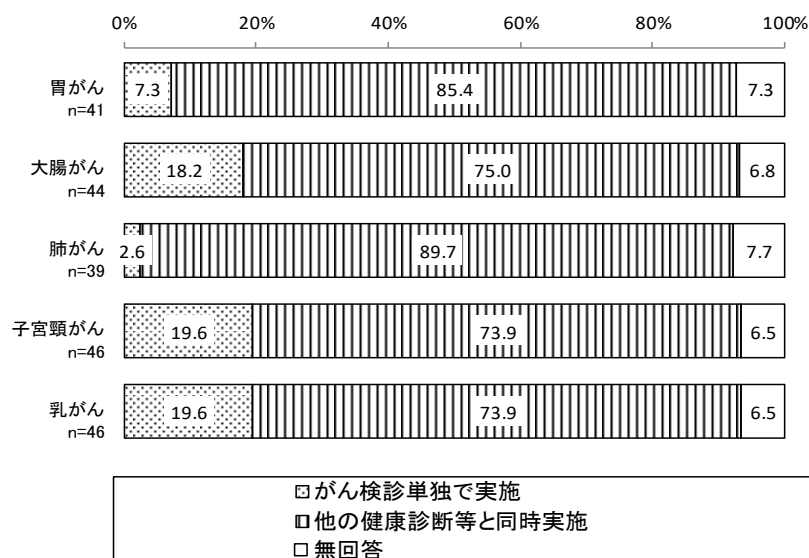
[被保険者]

問2 (3) 実施のタイミング (各がんについて、該当1つずつに○) 【図 H2-3-H】



[被扶養者]

問2 (3) 実施のタイミング (各がんについて、該当1つずつに○) 【図 H2-3-F】



(4) がん検診の費用負担の状況

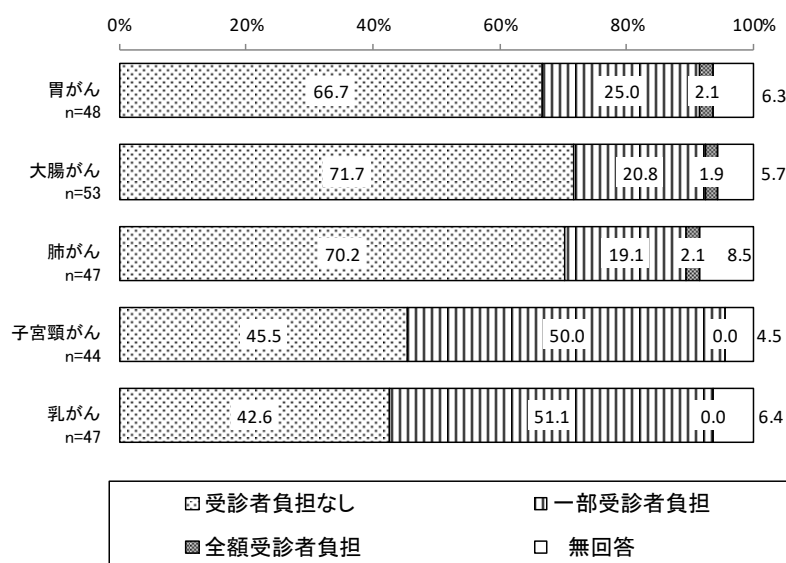
【全体の傾向】

各がん検診の費用負担の状況を伺ったところ、被保険者では[胃がん][大腸がん][肺がん]では「受診者負担なし」がそれぞれ6～7割。[子宮頸がん][乳がん]では、「一部受診者負担」がいずれも5割程度。

被扶養者では、[大腸がん][肺がん]は「受診者負担なし」が5割前後で、かつ「一部受診者負担」を若干上回っている。[胃がん][子宮頸がん][乳がん]では、「一部受診者負担」が5割台で「受診者負担なし」を上回っている。(図 H2-4-H/図 H2-4-F)

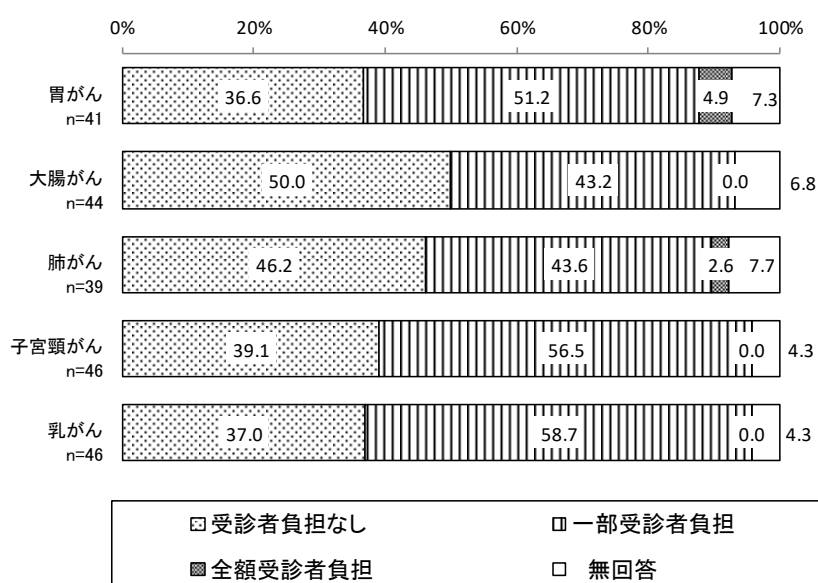
[被保険者]

問2 (4) 費用負担の状況 (各がんについて、該当1つずつに○) 【図 H2-4-H】



[被扶養者]

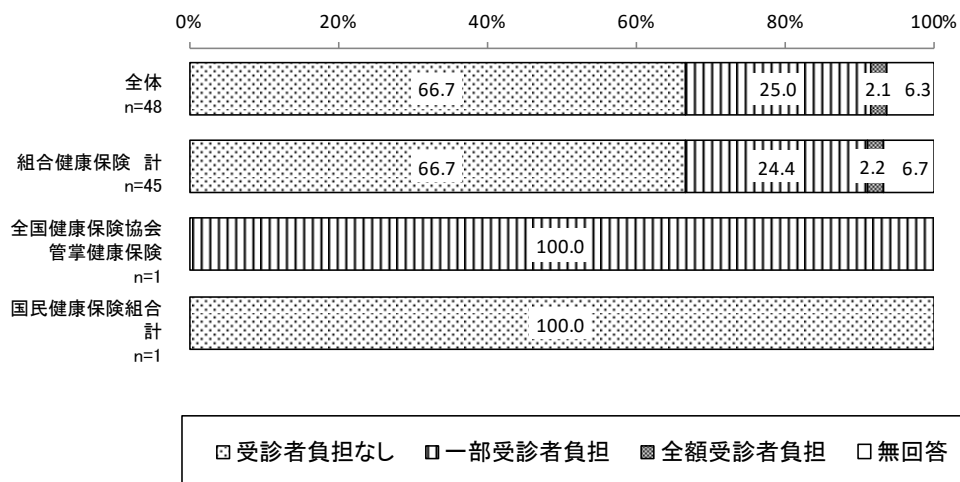
問2 (4) 費用負担の状況 (各がんについて、該当1つずつに○) 【図 H2-4-F】



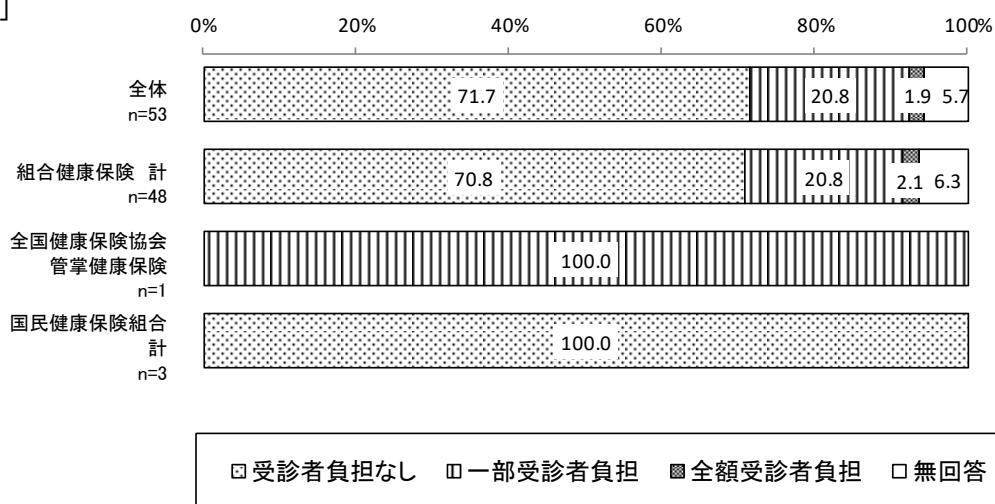
【医療保険者の種別の傾向】

ア. 被保険者の傾向 【図 H2-4-HH】

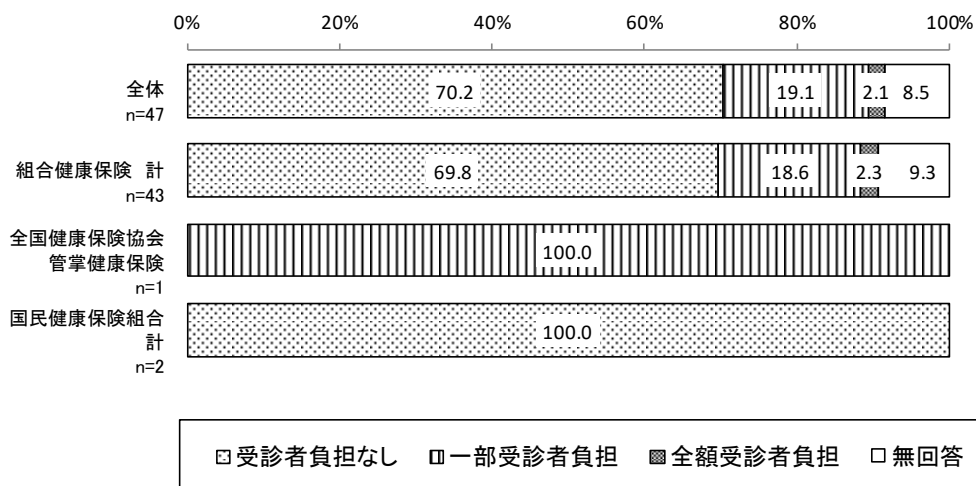
[胃がん]



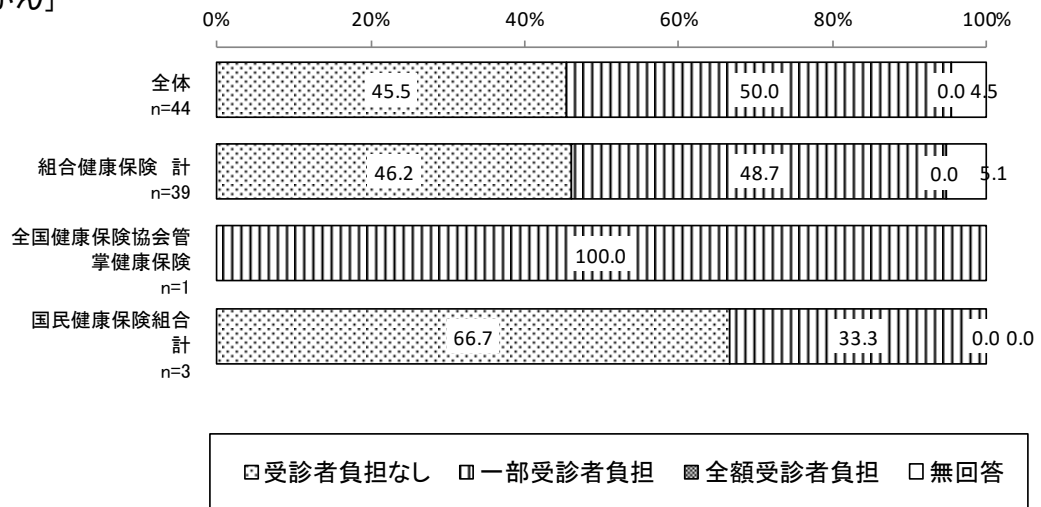
[大腸がん]



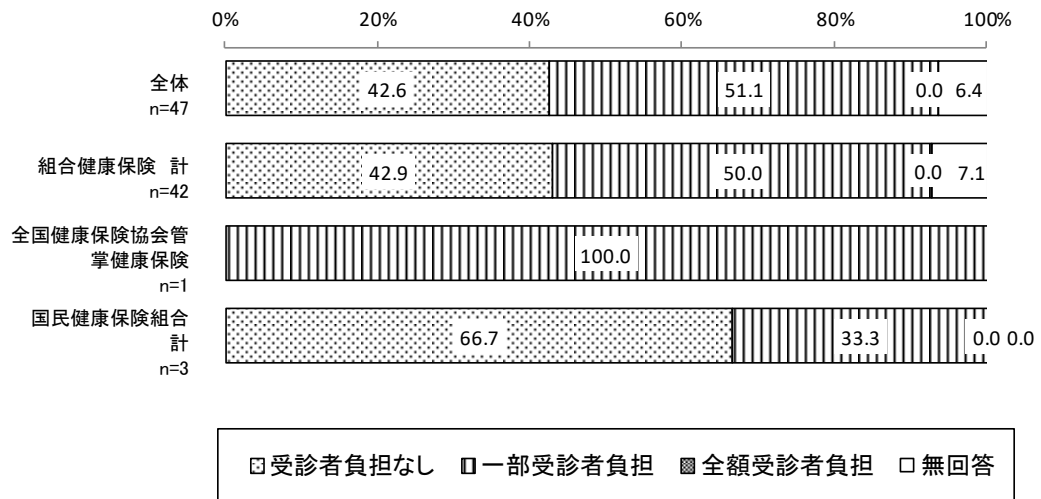
[肺がん]



[子宮頸がん]



[乳がん]



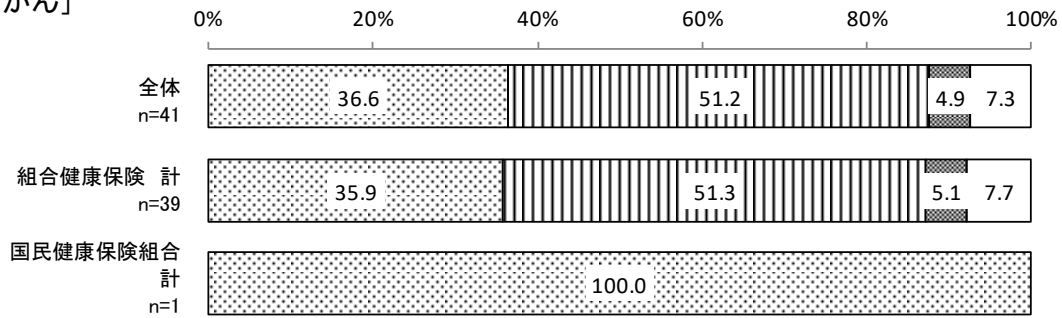
被保険者の状況を医療保険者の種別にみると、【組合健康保険】では[胃がん][大腸がん][肺がん]では「受診者負担なし」が7割前後で最も多いが、[子宮頸がん][乳がん]では「一部受診者負担」が5割前後で最も多い。

【国民健康保険組合】では[胃がん][大腸がん][肺がん]ではすべての医療保険者で「受診者負担なし」であるのに対し、[子宮頸がん][乳がん]では、「受診者負担なし」の割合は6割に留まる。

(図 H2-4-HH)

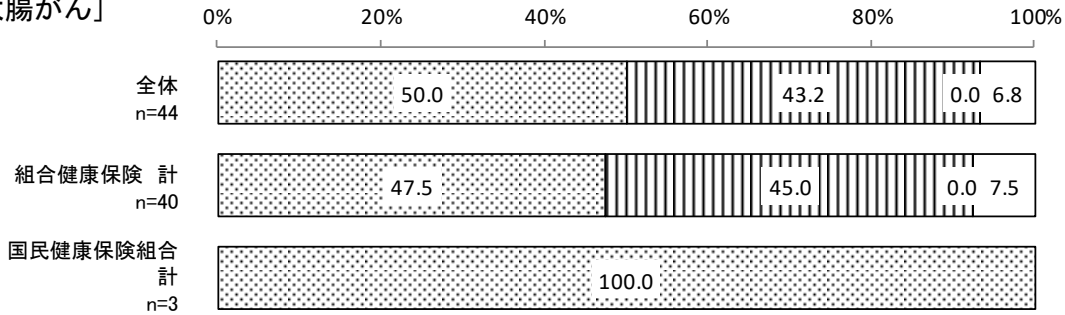
イ. 被扶養者の傾向 【図 H2-4-FF】

[胃がん]



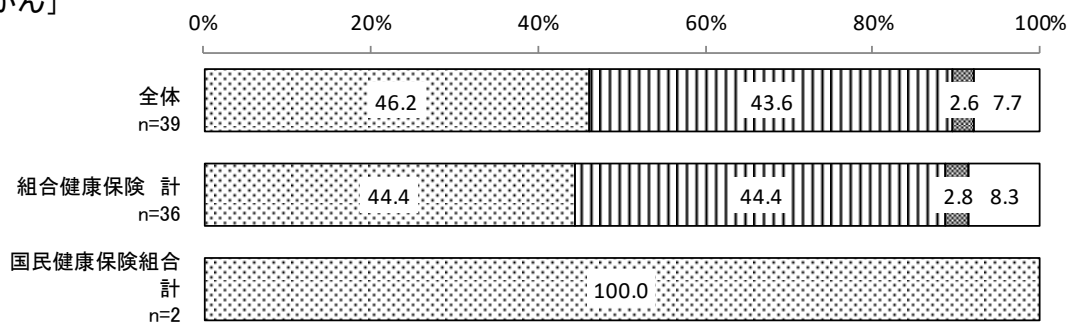
□ 受診者負担なし □ 一部受診者負担 ■ 全額受診者負担 □ 無回答

[大腸がん]

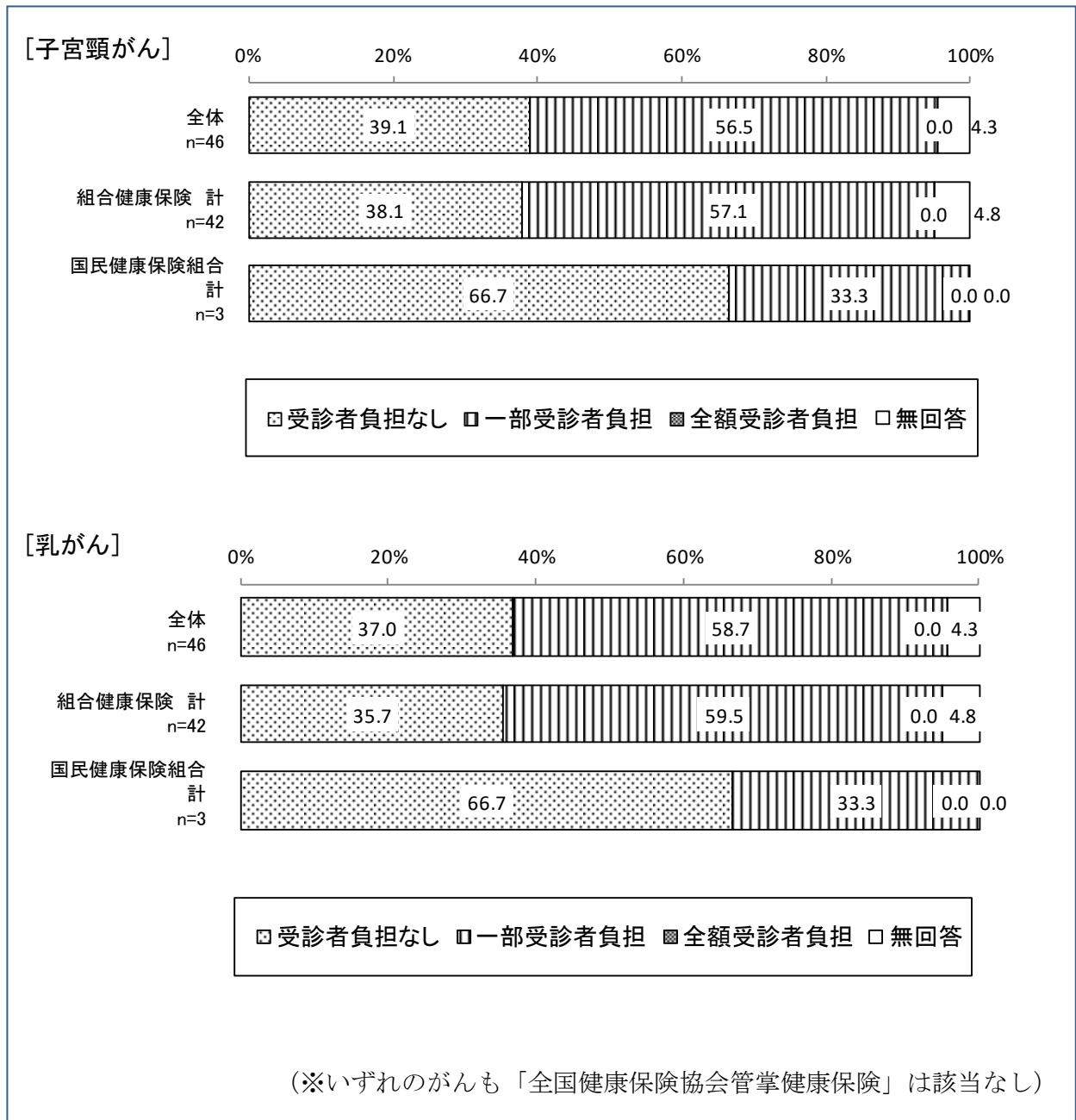


□ 受診者負担なし □ 一部受診者負担 ■ 全額受診者負担 □ 無回答

[肺がん]



□ 受診者負担なし □ 一部受診者負担 ■ 全額受診者負担 □ 無回答



被扶養者の状況を医療保険者別にみると、【組合健康保険】では[胃がん][子宮頸がん][乳がん]は「一部受診者負担」がいずれも5割台で最も多く、[大腸がん][肺がん]では、「受診者負担なし」「一部受診者負担」がともに4割となっている。(図 H2-4-FF)

(5) (実施していないがんについて) 実施していない理由

【全体の傾向】

被保険者の[肺がん]では、「その他」が最も多いが、その他のがん検診では、被保険者・被扶養者ともに、「予算・人員・設備が不足しているため」が最も多い。(表 H2-5-H/表 H2-5-F)

[被保険者]

問2 (5) がん検診を実施していない理由 (各がんについて、該当全てに○) 【表 H2-5-H】

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保険 者 数	た 務 が め 付 け ら れ て い な い 義	予 算 ・ 人 員 ・ 設 備 が	診 を 行 う た め 必 要 性 を 感 じ な い	医 療 保 険 者 で あ る た め に 感 じ な い	し て い る た め に 既 に 実 施 し て い る	ら に 実 施 す べ き か 分 か う な い た め	と く に 理 由 は な い	そ の 他	無 回 答
胃がん	12 100.0	2 16.7	6 50.0	-	1 8.3	-	-	-	5 41.7	2 16.7
大腸がん	7 100.0	2 28.6	3 42.9	-	2 28.6	-	-	-	3 42.9	1 14.3
肺がん	12 100.0	1 8.3	4 33.3	-	3 25.0	-	-	-	6 50.0	1 8.3
子宮頸がん	11 100.0	4 36.4	7 63.6	-	2 18.2	-	-	-	3 27.3	-
乳がん	9 100.0	4 44.4	7 77.8	-	2 22.2	-	-	-	1 11.1	-

[被扶養者]

問2 (5) がん検診を実施していない理由 (各がんについて、該当全てに○) 【表 H2-5-F】

上段:件数、下段:構成比(%)

	医療 保険 者 数	た 務 が め 付 け ら れ て い な い 義	予 算 ・ 人 員 ・ 設 備 が	診 を 行 う た め 必 要 性 を 感 じ な い	医 療 保 険 者 で あ る た め に 感 じ な い	し て い る た め に 既 に 実 施 し て い る	ら に 実 施 す べ き か 分 か う な い た め	と く に 理 由 は な い	そ の 他	無 回 答
胃がん	14 100.0	3 21.4	6 42.9	1 7.1	1 7.1	1 7.1	-	-	4 28.6	2 14.3
大腸がん	10 100.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	-	-	2 20.0	1 10.0
肺がん	16 100.0	3 18.8	7 43.8	1 6.3	1 6.3	1 6.3	-	-	6 37.5	1 6.3
子宮頸がん	11 100.0	3 27.3	5 45.5	1 9.1	1 9.1	-	-	-	2 18.2	1 9.1
乳がん	12 100.0	3 25.0	6 50.0	1 8.3	1 8.3	-	-	-	2 16.7	1 8.3

(6) (実施していないがんについて) 他の機会での受診を促す取組み

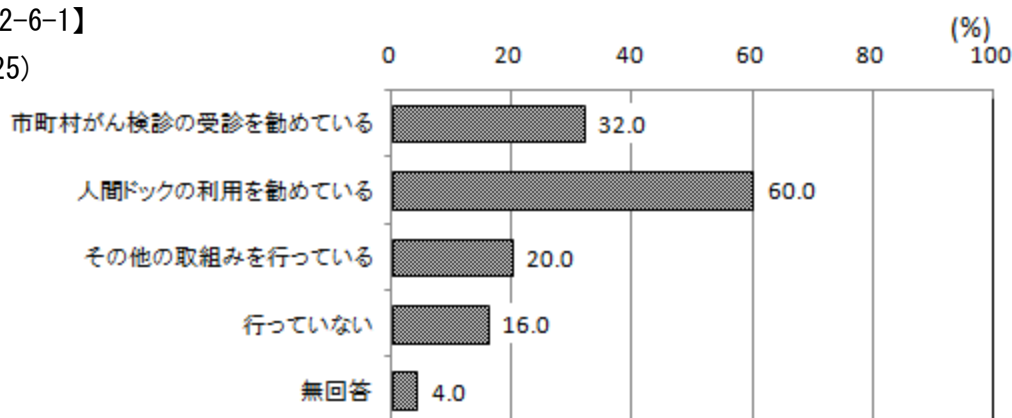
【全体の傾向】

実施していないがん検診について、他の機会での受診を促すために、＜何らかの取組みを行っている＞医療保険者は80.0%であり、取組みを「行っていない」と回答したのは16.0%。取組みとしては、「人間ドックの利用を勧めている」が60.0%、「市町村がん検診の受診を勧めている」が32.0%。(図 H2-6-1/図 H2-6-2)

問2 (6) 他の機会でのがん検診の受診を促す取組みについて (該当全てに○)

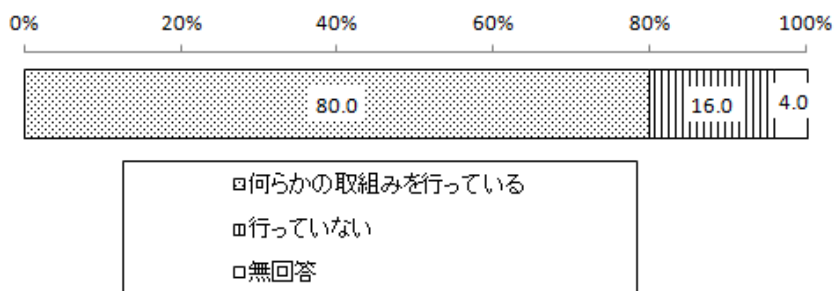
【図 H2-6-1】

(n=25)



問3 (2) より 他の機会でのがん検診の受診を促す取組みの有無※ 【図 H2-6-2】

(n=25)



※ ＜何らかの取組みを行っている＞は、問2 (6) において「市町村がん検診の受診を勧めている」から「その他の取組みを行っている」に1つ以上の選択があった医療保険者数より算出。